



### 高齢者等の交通弱者に対する 移動手段について

田辺 純子 議員



**質問** 館林都市圏地域公共交通計画の現状は。

**答弁** 6つの基本方針を定めて各種施策を推進しております、市内の新たな生活路線として、赤羽線・茂林寺巡回線・六郷西線・通勤通学ノースライナーの4路線を整備完了しました。

線バスの満足度を上げる取組について伺います。

**答弁** コロナ前の9割以上の乗客が戻ってきています。高校生の通学利用で乗車定員を超えたため、緊急にダイヤ改正するほどでした。今後も満足度が高まるよう対応したいと考えています。

**質問** 公共交通の現状と路

**質問** バスの満足度を上げ

るための具体的な取組について伺います。

**答弁** バスロケーションシステムや、デジタルサイネージの設置等を実施しています。路線バスの乗り継ぎや運行便数の抜本的な改善は難しいですが、対策を進めたいと考えています。

**質問** 満足度を上げ、使える路線バスにするためには、バスの増便が必要だと思いますが、いかがですか。

**答弁** 運送効率を考えると、日中の生活路線の便数拡充

は効率的ではなく、その他の交通手段で補完することが実態に即していると考えます。広域路線は路線数を整理の上、便数拡充を検討する考えです。

**質問** 交通弱者に対する移動手段の全てに対応することが難しいなら、補完する意味でタクシー券の制度を見直す考えを伺います。

**答弁** これまで相乗り時の複数枚利用や用途拡充、そして本年度は交付枚数を24枚から36枚にしました。

**質問** 板倉町・千代田町・邑楽町は48枚交付されています。千代田町は1回に3枚使え、使い切らなければ、買い物券としても使えます。タクシー券の枚数をさらに増やすことや1回に複数枚使えるようにすることに

ついて、どう考えていますか。  
**答弁** 市内全域で公平に路線バスの補完としての役割を果たせる利便性の高い、よりよいタクシー助成制度の構築に努めていきたいと考えています。



### 「地域共生社会の実現」について

斉藤 貢一 議員



**質問** 現状の地域包括ケアシステムの課題を伺います。

**答弁** 必要な支援を包括的に確保するという理念から、高齢者のみならず、生活上の困難を抱える障がい者や子ども、子育て家庭など、分野を超えた課題にも総合的に対応し、地域で自立した生活を送るための支援の

構築が課題として挙げられます。

**質問** 「地域共生社会」の考え方について伺います。

**答弁** 社会構造や暮らしの変化を踏まえ、制度、分野ごとの縦割りや支え手、受け手という関係を超えて、地域主体の人と人、人と資源がつながり、住民一人一

人の暮らしと生きがい、地域を共に作っていく社会を目指すものです。

**質問** 生活していく中の複雑化する問題として、ダブルケアやヤングケアラー等が挙げられるが、どのように人数を把握し、対策をしようとしているのか、伺います。

**答弁** 実数では把握していませんが、介護などの相談の際に把握できることもあります。対策としては、館林市社会福祉協議会に「ふ

くし総合相談窓口」の設置を委託し、福祉課題を全て受け止める体制を整備しています。

**質問** 第三次地域福祉計画が終了し、第四次地域福祉計画に移行しました。この中で「地域共生社会」の実現に向けた道筋が示されていると思いますが、アンケート結果によると、相談事業所やケアシステムに対する認知度が低い状況にあります。課題解決には、相談事業の充実と取り残さない

アウトリーチが必要と考えますが、今後の方針について伺います。

**答弁** 生活支援コーディネーターを配置し、高齢者に対する生活支援や地域で支え合う仕組みを作るとともに、民生委員、各種相談窓口、地域と連携した個別解決方法を探ります。また、相談事業に対する周知については、アウトリーチの方策とともに課題と捉えていますので、今後、検討していきたいと考えています。